

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3770102824		
法人名	(株) ケアサービス長谷川		
事業所名	グループホーム ミモザ		
所在地	高松市新田町2181-1 (電話) 087-844-8775		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年6月20日	評価結果	平成19年9月7日

【情報提供票より】 (19年6月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月16日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	19人	常勤	2人、非常勤 17人、常勤換算 11.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建て		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	18,500円
敷金	有 (200,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 450円
	夕食	450円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要 (6月7日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	5名		
要介護5			要支援2		
年齢	平均 85歳	最低	73歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふじさわ医院・はた医院・伊藤クリニック・渋谷歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地にゆったりとした外庭、中庭があり、自由に散策したり、ベンチに腰かけて過ごすことのできる住環境になっている。近隣の方も、自由に訪れやすい雰囲気である。建物内も生活しやすいように、居室や廊下は広く、食卓には季節の花が飾られ、落ち着いた環境の中で生活できている。職員は、明るく穏やかな態度で入居者に接しており、利用者一人ひとりの生活ペースに合わせ、見守り・手助けに心がけた支援に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、ケアサービス、運営体制について、いくつか課題が示されていたが、安全・安心な介護支援については、具体的に検討し、解決できるところから順次改善されつつある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、各ユニットの管理者がそれぞれに行っている。評価の機会を捉え、職員全員が一緒になって、ケアサービスの質の向上につながるような取り組みを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの現状報告や自治会・家族代表・行政等の参加者からの情報提供をいただきながら、運営についての助言や地域住民との交流の持ち方等、具体的な話し合いがなされている。利用者・家族をはじめ、地域に期待されるホーム運営のための意見を、広く反映できる会議となるよう期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時には家族に積極的に声かけし、気がかりなことや意見をいただくようにしている。また、遠方の方には、ホームページを開設して、健康状態やホームでの様子を報告している。年1回、家族会を開催しているが、家族の連携の場づくりやホームでの暮らしぶり等を、定期的に報告できる方法について職員間で検討し、可能な範囲での取り組みに期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、ホームの避難訓練に近所の人に参加したり、何気なく立ち寄り、話し相手になってくれる等、地元の人々との交流が広がりつつある。また、災害時の第2避難場所としての協力要請を受ける等、地域の一員としての役割を果たすよう努めている。さらに、地域への積極的な働きかけに期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者本位の運営・地域社会との交流・残存機能の維持を理念に掲げ、地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者主体の日々のケアに取り組んでいる。しかし、職員の採用形態、勤務体系も多様であることから、理念の具体的実践の共有を図る場が必要と思われる。	○	朝の申し送り時間を充実させて情報や意見交換の場としているが、日々の問題解決や理念の具体化と、実践に向けた取り組みを話し合う場として、定期的なカンファレンス・連絡会等の開催に期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にホームとして加入し、地元の人々と交流を図ったり、地域の一員としての役割を果たすよう努めている。近所の人とも何気なく立ち寄り、話し相手になってくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、前回の改善課題を実践可能な分野から取り組んでおり、日々のケアの改善に努めていることがうかがえた。	○	今回、自己評価については、各ユニットの管理者がそれぞれ独自に作成した。今後は、自己評価・外部評価の機会を、職員全員が一緒になってケアサービスの質の向上につながるような取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、そこでいただいた意見を、サービスの向上に活かしている。また、地域住民との交流・支援を得るための機会としている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターをはじめ、行政との連携の必要性を認識しており、運営推進会議以外での連携・機会づくりに取り組みつつある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の状態については、書面による連絡時・面会時・希望家族には、ホームページの開設により情報提供している。	○	加えて、ホームでの暮らしぶりや取り組み状況等を、定期的に報告できる方法について職員間で検討し、可能な範囲で実践して欲しい。そうすることにより、職員間の理念の具体的推進、サービスの向上が、更に期待できると思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、家族に積極的に声かけし、気がかりなことや意見をいただくようになっている。家族会は年1回の開催であるが、家族からは複数回の開催希望がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職・異動時による影響には、ローテーションを配慮する等により対応している。しかし、法人施設内としての考えもあり、管理者や職員の異動は比較的多い。	○	馴染みの管理者や職員による支援が重要とされるホームにおいて、職員の確保、異動や離職を必要最小限に抑える努力を、継続して行って欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の計画する、全体的な研修は計画されている。	○	緊急時の初期対応、日々の安心・安全なサービスの確保、向上・情報の共有化のためにも、ホームとしての具体的な研修計画が必要と思われる。また、ユニット単位、あるいは、合同の定期的なカンファレンス・連絡会等を計画し、その場がチーム全体の現任教育の場となるよう、実践に向け、検討が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加の機会に、横の連携を深める努力をしている。さらに、サービスの質の向上を図るためにも、同業者との相互訪問や勉強会の実施に期待したい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人・家族等にホームの雰囲気や生活を感じてもらい、職員との面談・相談を行いながら、方針を決めている。入居後も、馴染みが深められるようゆっくと対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩の一人として尊重し、言葉かけや対応に配慮しながら、共に学び、楽しむことのできる関係がうかがえる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、一人ひとりの行動や会話、意見に注意し、思いや意向の把握に努めている。また、家族との面会時にも、希望等について把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常に利用者の立場で本人や家族と話し合い、意見や要望を把握している。朝の申し送りの時間を活用し、状態の確認及び変化、対応等について情報交換し、介護計画の作成、共有を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングを行い、定期的な見直しと状態変化等を、必要に応じて、本人や家族、関係者と話し合い、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の要望に沿える支援のあり方の検討がなされている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、本人及び家族等の希望による、かかりつけ医の医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	いつでも家族からの相談に応じられ、職員全員がその方針を共有し支援できるように、ターミナルケアの指針作成、体制づくりに取りかかっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの人格の尊重を基本として、ケアをしている。また、記録をはじめ、その他の対応についても個人情報の保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で、何をしたいかを把握することに努め、希望を表出できない利用者に対しても、一人ひとりのペースに合わせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態を大切に声かけや介助により、食事が楽しみなものになるよう支援している。職員は、別の時間に昼食をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中、いつでも一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が「何をしたいか」、「何ができるか」を把握し、楽しみを持って役割を果たしていただけるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、買い物や朝夕の散歩に出かけられるよう、声かけする等の外出支援に心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、チャイムにより対応しており、自由に外出できるよう見守り、支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	本人が参加しての避難訓練を実施している。今後、消防署や地域の協力体制を得られるよう検討が進んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立を作成し、一人ひとりの調理の形態や摂取状況は、介護記録に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室、共有空間は、自然の採光が取り入れられる工夫がなされている。また、テーブルの花や玄関の置物等は、季節感を漂わせており、居心地よい空間となっている		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や生活用品を持ち込み、馴染みのある生活が継続され、居心地よく過ごせるよう支援できている。		